病んで、落ちてく。

雲霧　柚留

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
病んで、落ちてく。

【Ｎコード】
Ｎ４４６４Ｌ

【作者名】
雲霧　柚留

【あらすじ】
病んでる、連載という名前の小さい話を集めたもの。

チェシャ猫が教えてくれた、病んだ世界（前書き）

病んでます、とにかく病んでいます。

チェシャ猫が教えてくれた、病んだ世界

ヤンデレものになります。
ヤンデレの意味がわからない、ヤンデレが嫌いな人は、見ないほうがいいです。
ヒロインの名前&病んでるキャラがコロコロ変わります。
大体扱うジャンルは・・・・
リボーン／銀魂／ボカロ／Dグレ／ツバクロ／ククルとナギ／絶チル／ナルト・・・などです。
これ以外にも、オリジナルや、連載キャラもちろっと出るかもしれません。
見てくだされば嬉しいです。
ヤンデレ仲間も、ノーマルも遠慮なく来て下さい♪

チェシャ猫が教えてくれた、病んだ世界（後書き）

やっちゃいましたね・・・狂った愛ばかりですが、それでもいいというのなら
チェシャ猫と別れて、シロウサギについていってください。

シロウサギの狂ったお茶会（前書き）

さぁ、狂ったお茶会の用意は済みました。
あとはこの狂ったお茶会の主人公の貴方が来ればいいだけです。
シロウサギが貴方とお話がしたくて、うずうずしていますよ。
待たせすぎたらナイフを持ってくるかもしれませんね。永遠に話すために。
大丈夫、シロウサギの時計は止めておきました。いくらでも話せますよ。
でも女王は怒ってるみたいですが・・・

シロウサギの狂ったお茶会

「・・・まだ俺のことを見てくれないの？」
「レンはどうして・・・狂っちゃったの・・・？」
「やだなぁ美鈴・・・俺が狂ってるわけ無いよ」
「じゃぁ・・・どうして閉じ込めるの？」

ジャラッと、足につながれた鎖を揺らす。

「それは閉じ込めてるんじゃない・・・その鎖は僕だから」
「これが貴方の愛だとでも・・・？私は痛くてしょうがないわ」
「しょうがないよ、そうでもしないと美鈴は俺のことを見ないだろう？」
「こんな鎖で繋がなくても、私は貴方のことを見た！でも、鎖で繋がれてる今、そんな気持ちなんて、微塵も残ってないわ」
「あはは・・・照れてるんだね、そうだろう？」
「・・・レン・・・・」

抱きしめられて、もう何もいえなくなった。
足につながれた鎖はまだ、怪しい光を保っていた・・・・

ＦＩＮ

シロウサギの狂ったお茶会（後書き）

・・・申し訳ございません
初の作品がこんなのでは、貴方は満足しないでしょう？
また狂ったお茶会を開くことにします。そのときはもっとすばらしいものを
用意しますわ。シロウサギも名残惜しいけど、お別れを告げましたわ。
今度はお城でダンスパーティーがありますわ。
今度は女王についていってくださいな。

女王が言った、「お死になさい」とダンスパーティーで（前書き）

まぁ大変、貴方にはドレスが無いのを忘れていましたわ。
ドレスを探したけれど、これしかないのですわ・・・・
しょうがありませんわ。我慢してこの赤い、血のようなドレスを着ていただくしかありません・・・まぁ、どうしたことかしら。
ドレスから赤い水が滴っているわ・・・・でも、王様も赤い服を着ていますわ。
着てくだされば きっと目立ちますわ。この死へと続くダンスパーティーで。

女王が言った、「お死になさい」とダンスパーティーで

「あーあ・・・どうして君は動かないの？」

もう動かなくなったミオを抱きしめて、不適に笑う白蘭

「あぁそうか、僕が殺しちゃったからか」

そう言い放ち、手でミオの髪の毛をすくって、口付けた。

「でもよかったよ」

ぎゅっと抱きしめて、絶対に離さない。

「君が僕のものになってくれて♪」

服や手につく血にかまわずに、抱きしめて、キスをした。

あぁ、あぁ！

駒鳥の花嫁は雀の花嫁になってしまったよ！駒鳥を殺したのは雀だというのに！

駒鳥は死んだ。

駒鳥は殺された。

駒鳥を殺したのは雀で

駒鳥の死を目の当たりにしたのは駒鳥の花嫁。

駒鳥の血を受けたのは魚で
駒鳥の墓を掘るのは鶯で
駒鳥の挽歌を歌うのはカナリア。
そして、駒鳥の棺を運ぶのは鷲で
駒鳥が眠りにつくのを見るのが駒鳥の花嫁で
駒鳥の愛する人は駒鳥の花嫁。
駒鳥の花嫁も眠りについて
駒鳥も駒鳥の花嫁もいなくなった。

（マザーグースより）

女王が言った、「お死になさい」とダンスパーティーで（後書き）

王様がこちらに来いとおっしゃっているわ。
あら、白い薔薇を貰ったのね。棘には気をつけて・・・
もし棘で血が出たら
それを一番にかぎつけるのは狂ったチェシャ猫なのだから・・・

狂ったチェシャ猫の手当て（前書き）

まぁ、白い薔薇のせいで指から血が・・・
ちょうどよかった。
チェシャ猫が手当てしてくれるそうですわ。
あらあら、チェシャ猫。
小さな棘のキズに、刃物は必要ないでしょう？
ごめんなさいねアリス。
この子は狂っていて、どうしたらいいかわからないのよ、きっと。

狂ったチェシャ猫の手当て

「死にたがり症候群」

私は時々死にたくなる。
一昨日は飛び降りようとして、アイツに見つかるし、
昨日は手首を切ろうと思ったら、刃物が見つからない。

私が死ねないのは、あいつのせいだ

「いい加減死なせろ」
「死なせるわけにはいかないよ、君が好きだから」
「私はお前を好きじゃない」
「俺は好きだから、それでいいの」
「絶対死んで、お前から逃げてやる」
「お前じゃないでしょ？俺のこと「綱吉」って呼んでよ」
「絶対呼ばない」
「どうして愛理は俺から逃げたがるの？」
「お前が大嫌いだからだ」
「・・・」
「絶対死んでやるから」
「絶対死なせないから」

狂ったチェシャ猫の手当て（後書き）

さぁアリス。お時間ですわ。
トランプ兵たちが貴方を待ち望んでいますの。
抑えるのは大変ですわ。
貴方なら抑えられる気がしますの。
早く来てくださらないと・・・

トランプ兵たちのポーカー（前書き）

あら？もうすでにおさまっていたみたいね。
ポーカーを始めたみたいですから、私たちもしましょう。
でもこれは死のポーカー。
ビリの者から女王に殺されるから、気をつけてね・・・・
私は強いから、きっと平気でしょうけど。

トランプ兵たちのポーカー

鳥かごのようなところで、私は死んだように眠っている。

「あぁ、アリスは今日も可愛らしい」

いや、死んだのだ。

白兎という名をかたった悪魔によって。

「アリス、今日のお茶はとってもおいしいよ」

死体になった私にムリヤリお茶を飲ませる白ウサギ。

「どうしたんだい？あぁそうか、僕がアリスを殺したからか」

ムリヤリキスを落とす白ウサギ。

「あぁ、そんな君も可愛らしい。やっぱり殺して正解だね、心も僕のものだ」

あぁ、いつになったらこの悪夢から解放されるのかしら？

永遠に解放されないのかしら？不思議の国には時間が無いもの・・・・

「君は僕のもの、僕は君のものだよ、さぁお茶会を続けようか」

私を引きずり、狂ったお茶会を続ける白ウサギ。

あぁ、私を解放して

トランプ兵たちのポーカー（後書き）

まぁ、ポーカーに勝てたの・・・
それはよかった。
白ウサギさんがお茶会の用意をしてるわ。
また行って見たらいかがかしら？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4464l/

病んで、落ちてく。

2010年10月15日00時35分発行